打上花火

ひみわた なぎさ

あの日見渡した渚を

いま おも だ

今も思い出すんだ

すな うえ きざ ことば

砂の上に 刻んだ言葉

きみ うし すがた

君の後ろ姿

よ かえ なみ

寄り返す波が

あしもと なに さら

足元をよぎり 何*か*を攫う

ゆうなぎ なか

夕凪の中

ひぐ とお す

日暮れだけ*が* 通り過ぎてゆく

ひか さ

パッと光って咲いた

はなび み

花火を見ていた

お なつ

きっとまだ終わらない夏が

あいまい こころ とうか つな

曖昧な心を 透過して繋いだ

よる つず ほ

この夜が 続いて欲しかった

なんどきみ おな はな び み

あと何度君 と同じ花火 を 見られるかなって

わら かお なに

笑う顔 に何 ができるだろうか

きず よろこ

傷つくこと 喜ぶこと

く かえ なみ じょうどう

繰り返す波と情動

しょうそう さいしゅうれっ*しゃ* おと

焦燥最終列車の音

なんど よ

何度でも 言葉にして 君を呼ぶよ

なみま えら いちどどど

波間を選び もう一度

にど かな す

もう二度と 悲しまずに 済むように

いき の

はっと息を飲めば

き ひかり

消えちゃいそうな光が

むね す

きっとまだ胸に住んでいた

て の ふ

手を伸ばせば触れた

み らい

あったかい未来は

ふ たり み

ひそかに二人を見ていた

パッと花火が

夜に咲いた

夜に咲いて

静かに消えた

離れないで

もう少しだけ

もう少しだけ

パッと光って咲いた

花火を見ていた

きっとまだ終わらない夏が

曖昧な心を解かして繋いだ

この夜が続いて欲しかった

パッと花火が

夜に咲いた

夜に咲いて

静かに消えた

離れないで

もう少しだけ

もう少しだけ